



金浦空
港に向か
う観光バ
スの中
で、韓国
人の女性
ガイドは
やや恥ず
かしそに語りかけた。

「私たち韓国人は大変
自己主張の強い民族なの
です。例えば、海外旅行
をして集合時間を指定し
たとします。時間通りに
来るのは、せいせい一人
ぐらい。あとの人は、自
分の思い通りに行動する
のが当然と考え、平気で
遅れて来るのです」

ソウル・オリンピック
をきっかけに、また一段
と近代都市に変わつた
ソウル。街並みに見入
っていた私は、その話に思
わず耳をそばだてた。石
造りの家を見て、日本が
木の文化とすれば韓国は
石の文化だと勝手に納得
したり、歴史作家の司馬
遼太郎氏は、韓国は儒教
の国だと言っていたな、
などとも思ひにふけっ
ていた矢先でもあり、彼
女の現実的な話は妙に新
鮮に聞こえた。

「日本人と韓国人のビ
ジネスマンが交渉すると
します。一対一で交渉す
れば、必ず韓国人が勝ち
ます。でも、五対五で交
渉すれば、日本人が必ず
勝つでしょう。なぜなら、

韓国人は複数になれば、
意見の対立が調整され
ず、組織的な日本人に対
抗できないからです」
若い女性ガイドの口か
ら出てくる言葉は、まる
で現在の日韓関係の背景
にある国民性の違いであ
るとか、経営者の組織
論の実際例を聞くよう

肥後のいもつる

——亀井 創太郎

で興味深かった。同時に、
こんな話は身近で
もよく聞く話だとも思え
た。

本来、日本人は討論下
手だと言え。論理的な
思考、適度な自己主張を
苦手としているからであ
る。何しろ、和を尊ぶ国
民性である。徹底して相

手の意見を論破する前に
つい矛を収めてしまつ。
昔、銀行に勤めていた
時はそうでもなかった。
当時は、毎月の部会で各
人が調査している事項を
報告しなければならなかつた。そこでは、徹底し
た討論を要求された。下
手なことを言ったり、自
信の無いことをしゃべろ
うものなら、いや応なく
上司や先輩に反論された
ものである。恥をかけた
ことは数限りない。その
ころ、仲間うちで言い交
わっていた言葉がある。
「笑ってごまかせ 自
分の失敗。あくまで追及
他人の失敗」

最近、社内外の会議に
出て物足りないのは、な
かなか本音の討論になら
ないことである。狭い地
域社会のせいかもしれないが、
現状を打破し、創造的に
進むことはできない。

そういう県民性から早
く脱皮し、十二分に議論
を戦わした後は互いが助
け合うという美風をつく
り出したい。そして女性
ガイドにはこう紹介され
たいものだ。

「熊本の人には、一対一
でも手ごわい交渉相手で
すけれど、集団になれば、
一層素晴らしい組織力を
発揮するのです」

(亀井通産社長)